

光ってから消えるまでの一連の過程を見た、とするならば shine でも可。

- (9) 「距離がとても遠かったので、それが何であるのかわからなかった。」  
「非常に離れていたのだ」と理由を表す独立分詞構文にするか、接続詞を補って完成した文にする。
- (10) 「この角度から見ると、その岩はライオンのように見える。」  
the rock と see との間には The rock is *seen* from this angle, という受動関係が潜在するので Seen とする。

## 【5】

### 解答・解説

- (1) My dog was kept tied to the tree in the park.  
keep A 過去分詞 (Aを…された状態にしておく) の受動態。  
Aと過去分詞の間には受動関係がある。
- (2) We don't want to have you involved in this trouble.  
○ have A 過去分詞「Aを…させる」  
you are involved in this trouble という受動関係が潜在するので過去分詞。  
○ involve ～「～を巻き込む」
- (3) He was listening to the radio with his eyes closed [shut] .  
○ 付帯状況を表す with A C (過去分詞)  
his eyes were closed [shut] という受動関係が潜在するので過去分詞。
- (4) He sat surrounded with [by] his friends.  
主語の状態を補足する分詞の用法。  
cf. She stood *singing* the song. (彼女はその歌を歌いながら立っていた。)
- (5) Can't you feel the house shaking [trembling ; quaking] ?  
否定の疑問文。  
○ Can't you …? 「…できないかい？」  
○ feel A …ing 「Aが…しているのを感じる」

### 3章 総合問題3

#### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

最初人間がどのようにして像や絵を作るようになったにしろ、仕事に熟練した人たちがその仕事をやっていこうと思ったのは、職業的な目的のためだけでなく、その職業は何であれ、楽しんで、すなわち像や絵の製作自体を目的としていた面もあったからだ、と考えるのはもっともなことである。ナイフ、斧、槍、楯のような本当に実用的な物でさえ、仕事を楽しむためにしばしば作られた証拠があり、それらの物は、武器の機能とは何の関係もないのに、またある場合には、まったく役に立たなくさえしてしまうかもしれないのに、凝った工夫や装飾が付け加えられている。しかし、このような本来の目的とは関係のない工夫や装飾は、職人が仕事を楽しむことから発生してきたと考えられるが、こういった技術が発展した結果、新しい利用法ができ、新しい職業活動の土台となることもあるかもしれないのである。

B.

#### 全訳

大衆の間に読み書きの能力が広まり、その結果創出された易しくて面白い読み物への需要を満たすために安価な本や雑誌や新聞が発達し、さらに生活の速度が上昇した。この三者が結びついた結果、より短い文が望ましく、かつ本当に必要になったのである。

#### 【2】

#### ポイント

冒頭に代名詞が出てくるが、読み進んでいくと、この She が何を指しているかが第1段落の終わりまででわかる。その後に続く3つの段落ではマネキン人形を扱う人たちの気持ちが説明されている。段落ごとに内容を整理しながら読むことが大切である。

#### 解答

- (1) the [a] mannequin      (2) 男のマネキン人形      (3) b      (4) d  
(5) 「全訳」の下線部㊟を参照。  
(6) 2ヶ月ごとの新しいマネキン人形の購入(18字)  
(7) two years

#### 解説

- (1) マネキン人形全体を代表して言う時、the mannequin, a mannequin, mannequins の3通りが考えられるが、She は単数形の代名詞だから、前二者のいずれかである。  
(2) of her own kind は「マネキン人形の」ということである。  
マネキン人形といえば、女性のそれが普通で、男性のそれはあまりないというのである。

- (3) a number は「(1つの) 番号」の意。

「数」や a number of ～「いくつかの～」ではない。

なお, a number of = some であって, many の意味で用いられることはない。many に対応するのは a great number of である。

the woman who modeled for it は「マネキン人形のモデルをつとめた女性」の意。

a a number の誤訳と名前をつけるのがモデルとなっている。

c 「数」と「モデルを作った女性」が誤り。

d 「一連の数」と「それをモデルにする女性」の意味があいまいである。

- (4) ○go with ～「～と調和する；合う」

well はそれを強めている。

a 「伴う」 b 「従う」 c 「似ている」の意でいずれも不適當で, d suits が最も近いので d を選ばざるを得ないが, 語用上は go with と suit は少々違うので英作文では使い分ける必要がある。

正確には,

○go with = match 「(物) に調和する」

Ex. Your hat		goes with		your shirt.
		matches		

○fit 「(サイズが) 合う」

Ex. The coat *fits* me beautifully.

○suit 「(衣服・色などが) (人) に似合う」

Ex. This blue dress *suits* her best. (この青い服は彼女に一番良く似合う。)

- (5) What は関係代名詞で look for 「さがす；求める」の目的語となっていて, What から days まだが全体の主語の節である。それに対して次の are が述語動詞。

stores は「店」としたが, デパートなどの大きいものも含んでいる。

these days は「今日；このごろ」の意で, 現在形の文を修飾する。

perfect は「完全な」, つまり欠点がなく美しいこと。

Like ～は前の文に付加したものと考える。Sara Kapp's のあとに face を補う。

Sara Kapp はマネキン人形のモデルをつとめた女性である。

○ interesting, rather than perfect faces

	interesting		faces 《右方転移》
	(rather than perfect)		

- (6) この that は she adds を間にはさんで is why … につながり, 「そういうわけで…」と, why 以下の現象の理由となる事柄を示している。つまり「特別な人形に慣れ親しまないことが一番いい」の理由であって, その前の文の内容である。

Bloomingdale's … in use の部分は直接関係ないし, and Candy Pratts says も理由にならない。

her department 以下が解答部分である。代名詞 ones を明らかにして説明する。

(7) 問いの文は「店内でのマネキン人形の寿命は普通どのくらいか」の意。

答えはℓ. 18 her life in a good store is not likely to be more than two years のところにある。

答えの文に at most 「せいぜい」がついているのでそのまま two years としてよい。

not likely to be more than two years とすると, usually や at most と重複することになってしまう。

**全訳**

彼女の人生は短い, 大変裕福なものである。彼女はたくさんの美しく高価なドレスや素晴らしい毛皮や宝石を身につけ, 一流の店に姿を現す。彼女に着付けをしたり顔をきれいにしたりする人々がいる。しかしながら, 数え切れない彼女の崇拝者がいたとしても, 彼女はほほえむことはめったにない。彼女は美しいが, 彼女と同種の男性にはめったに会わない。彼女はただ他の女性たちに印象づけるために着飾るようである。もう見当をつけられたと思うが, 彼女というのは店の飾り窓から夢見るように見つめているマネキン人形である。

飾り窓の飾りつけをデザインする人々の中には, マネキン人形は仕事に使う物体にすぎないと思っている人々がいる。しかしこの人形を利用する大抵の人は, 名前を使って呼ぶのである。マネキン人形は製造者によって番号がつけられるが, 大抵そのモデルをつとめた女性の名前で知られている。そして生きているモデルと同様, 「彼女」はその姿がある特定の衣装デザイナーの作るファッションによく合っているという理由で選ばれるのである。ウルフ・アンド・ヴァインマネキン社のボブ・フィロソは「『12番を持って来て』などとは決して言うべきではない。『サリーをとって, あるいはローザをね。』と言いなさい。」と説明している。

⑨今日店が求めているのは, 完璧な顔よりも関心を引く顔である。たとえばサラ・カップの顔のようにである。彼女はプロのモデルで, アデル・ルートステイン社が彼女に似せて作った人形は, 現在人気がある。高い鼻と緑色の眼のため, サラは美しいというよりも変わった顔に見える。

マネキン人形は, 非常に大切に扱われたとしても, 良い店の場合でさえ寿命が2年を超えることはないようである。ブルーミングデイル百貨店では160体のマネキン人形が使われており, キャンディ・ブラッツさんの話では彼女の売り場では2ヶ月ごとに新しい人形が購入されるという。「だから特定のマネキンに慣れ親しまないことが一番いいんです。お気に入りのマネキンができてしまうと, 別れるのが辛くなりますからね。」と付け加えている。

**注**

ℓ. 1 ◇ lead a short life = live a short life (同族目的語)

◇ a very rich one = a very rich life

cf. one = a [an] + 単数名詞

ℓ. 2 ◇ marvelous = causing great wonder ; extremely good

◇ fur[fɜːr] = C a coat made from fur : U the skin of an animal, covered with soft, thick hair

◇ best = of the highest quality

ℓ. 3 ◇ dress = put clothes on someone

◇ Still = Nevertheless

◇ even though she has thousands of admirers : even though…を用いた文は even if を用いた文とは違い、「実際にそうである」場合に用いる。

Ex. Even though you are tired, you have to work.

= I know you are tired, but you have to work.

cf. Even if you are tired, you have to work.

= I don't know whether you are tired or not, but you have to work.

○ thousands of 「無数の」

※英語では 100,000 も one hundred thousand であるから, thousands of は日本語の「何千もの」とは必ずしも対応しない。

○ admirer = a person who admires someone or something

cf. admire = regard with wonder, pleasure and approval

ℓ. 4 ◇ She gets all dressed up, it seems, just to impress other women.

= It seems that she gets all dressed up just to impress other women.

S, I know, V ≡ I know that S + V の型。

○ all = completely

○ just = only, merely, simply

○ impress = affect strongly the mind or emotion of

ℓ. 5 ◇ as you might have guessed 「あなた方が推測してしまったかもしれないように」《直訳》

as は関係代名詞。先行詞は She is the mannequin who gazes dreamily from the windows of stores.

might は婉曲表現の仮定法。

ℓ. 6 ◇ mannequin [mænikɪn] = a dummy used to display clothes in a shop window

かつては a woman who models clothes in stores, etc. の意味でも, つまり生きている人間にも用いられた。

◇ gaze (dreamily) from the windows

○ gaze = look steadily ; stare

ℓ. 7 ◇ display = a collection of objects being displayed

◇ think of A as B = regard A as B

ℓ. 8 ◇ work with ~ 「~を用いて仕事する」

◇ the figures は the mannequins を指す。

○ figure[figjə] = a representation of a human or animal form in drawing or sculpture

◇ by name = using the name of someone or something

ℓ. 10 ◇ by 「判断の基準」

◇ a living model 「生きているモデル」

ℓ. 11 ◇ particular[pə'tɪkjələ] = 「特定の」 ※「特別の」ではない。

ℓ. 15 ◇ look-alike = a person or thing that closely resembles another, especially someone who looks very similar to a famous person

ℓ. 16 ◇ currently = at the present time

- ℓ. 17 ◇ unusual = remarkable or interesting because different from or better than others
- ℓ. 18 ◇ get excellent care 「とても大切に使われる」
- ℓ. 19 ◇ Bloomingdale's「ブルーミングデール」(米国 New York 市 Manhattan にある百貨店)  
 ◇ have ~ in use 「~を使っている」  
 ○ in use = being used
- ℓ. 20 ◇ every two months 「2ヶ月ごとに」  
 ◇ And that, she adds, is why it's best not to get used to any particular mannequin.  
 = And she adds that that is why it's best not to get used to any particular mannequin.  
 ○ get used to = get accustomed to
- ℓ. 21 ◇ favorite = a person or thing liked best
- ℓ. 22 ◇ go = leave ; depart ; cease to exist

### 【3】

A.

#### 解答

- (a) (1) My mother did not let me wear a miniskirt.  
 (2) I happened to see the girl cheat(ing) in [during] the exam.  
 (3) My watch had stopped without my knowing it.
- (b) (1) There is no catching anything he says when he speaks English.  
 (2) It is no use telling Akira anything.  
 (3) Questioned about his politics, the candidate gave [could give] only vague answers.

#### 解説

- (a) (1) 「A が…するのを許す」は, let A … で表す。ここでは2語不足なので, let と, 「ミニスカートをはく」の「はく」に当たる動詞を補えばよい。この文脈での「はく」は, 動作ではなく状態を意味するので, 状態動詞の wear を補うことになる。
- (2) happened が与えられているので, 「たまたま…する」を表す happen to …という表現を思い付くはず。そうすれば, I happened to see the girl まだができる。「A が…するのを見る」に対応するのは, see A … […ing] で, 「動作を最初から最後まで見る」場合は原形, 「行われている動作の途中を見る」場合は現在分詞を用いるのが原則であるが, ここではどちらを用いてもよい。「カンニングする」を表す動詞は cheat である。英語の cunning は「ずるい; 悪賢い」という意味なので, ここでは不可。「試験中に」は普通 in the exam だが, 「試験中」を独立した副詞句と考えれば, during the exam としてもよい。
- (3) 「私の時計は止まっていた」は, my watch had stopped となる。「知らぬ間に」をどうするかが問題だが, without が与えられていることから, without one's … ing (～が…しないで) という言い方を思い出してほしい。「私がそれ (= 時計が止まったこと) を知らないうちに」と考えて, without my knowing it とする。knowing の代わりに noticing としてもよい。

- (b) (1) 「…することは不可能だ」を there で始める文で表すには, there is no …ing を用いればよい。「～を聞き取る」は catch, get, follow などを用いる。understand は「～を(苦労して)聞き取る」というニュアンスがあまり出ない。「彼の英語」はそのまま his English としてもよいが, より具体的に, anything he says when he speaks English, what he says in English のようにするのが自然。
- (2) 「…しても無駄だ」を it で始める文で表すには, 定番の it is no use …ing を用いればよい。他に, it is useless [no good] …ing [to …] を使うこともできる。自分が最も自信のある表現を用いるのがよい。「アキラ君に何を言っても」の「言う」に当たる動詞に, tell, speak, talk, say のどれを使うべきか迷った人がいるかもしれないが, 直接「人」を目的語にとれるのは tell だけである (tell は話しかける相手に重きを置く動詞だから)。したがって, ここでは telling Akira anything となる。
- (3) Questioned で文を書き出すという指定があるので, 過去分詞構文を用いることになる。question A about [on ; as to] B で「A に B のことを質問する」の意味なので, when he was questioned about his politics を分詞構文にして, questioned about his politics, … とする。「候補者」は candidate, 「あいまいな返答をする」は give vague answers, answer vaguely を用いる。

B.

#### ポイント

まず, 与えられた英文を読んでみよう。次のような意味になる。

「職業をどう選ぶかについては, さまざまな考え方がある。ある人々は ( 1 )。しかしながら, 別の人々は ( 2 )」。

some people と other people は人々の行動・言動パターンを対比させる時によく使われる表現である。「…する人もいる」と訳されることも多い。また, however があることから, 空所 (1) と空所 (2) には対照的な内容を入れるべきである。

#### 解答例

- (1) choose to make a living by doing what they enjoy (自分の好きなことをしてお金を稼ぐことを選ぶ) (10 語)
- (2) choose as their occupation what they are able to do, even if it is not their favorite thing to do (好きではなくても能力的にできることを職業として選ぶ) (20 語)

#### 別解

- (1) believe a stable, if not large, monthly salary is the most important thing (多くはなくても, 安定した月給が最も大切なことだと信じる) (13 語)
- (2) prefer an income system that allows them to earn a huge amount of money, according to their ability or efforts (能力や頑張りによって巨額のお金を手にできる可能性がある収入体系を好む) (20 語)

#### 解説

**ポイント** をふまえて, 職業の選び方について考えてみよう。例えば次のような対比がえられるだろう。

◇仕事内容に関して

- 自分の好きなことや趣味に近いこと vs 趣味と仕事は別だ
- 日々変化する仕事 vs 毎日同じことを繰り返す仕事
- 大学の専門が生かせる vs 大学の専門とは関係ない
- チームワークで動く vs 個人作業
- 内勤 vs 外回り

◇収入体系に関して

- 安定している vs 毎月異なる
- 月額が一定である vs 個人の業績によって変化する

◇勤務地に関して

- 都会 vs 地方
- 家族と同居 vs 1人住まい
- 出身地 vs 出身地以外の場所

**解答例** で使われているものを中心に、このようなテーマで使えそうな表現をいくつか挙げておく。

- 「好きなこと」 what you like to … ; a favorite thing to …
- 「生計を立てる」 make a living
- 「(能力的に) …できる」 be capable of …ing
- 「安定した」 stable
- 「～ではないとしても」 if not ～
- 「収入体系」 an income system
- 「～によって」 according to ～ ; depending on ～
- 「能力」 ability ; competence

【4】

**解答** .....

- (1) not having worked (2) of his [him] having cheated
- (3) my [me] coming / to my [me] coming (4) to eating / Why / Why not
- (5) feel like (6) There is no
- (7) Besides (8) kept [prevented ; stopped], from coming
- (9) never, without

**解説** .....

- (1) 「私は留学前に熱心に勉強しなかったことを後悔している。」  
○ regret …ing [having 過去分詞] 「…したことを後悔する」  
having worked は完了動名詞。regret …ing でも過去のことを表すことができる。  
not は動名詞の直前につける。  
cf. regret to … (残念ながら…する)
- (2) 「彼が試験で不正を働いた証拠があった。」  
動名詞の意味上の主語は所有格または目的格で表される。



having cheated は完了動名詞。

- (3) 「靴を履いたまま入ってもいいですか。」  
○ mind …ing 「…するのを嫌がる」  
my [me] は動名詞の意味上の主語。  
○ object to …ing 「…することに異議を唱える」  
to は前置詞であることに注意。  
○ with my shoes on ※ with A C (AをCの状態にして)
- (4) 「今夜は家で食事しませんか。」  
いずれも勧誘・相手の意向を問う表現「…してはいかがですか」。  
What do you say to …ing? の to は前置詞であることに注意。  
○ eat in 「家で食事する」 ⇔ eat out
- (5) 「鰻の蒲焼を食べる気がしない。」  
○ in no mood for ~ 「～する気がしない」 = do not feel like …ing  
○ grilled eel 「鰻の蒲焼」
- (6) 「我々はその会社の銀行預金残高の不足の理由を説明することができない。」  
○ there is no …ing 「…することはできない」 = it is impossible to …  
○ account for ~ 「～の理由を説明する」  
○ deficit 「不足」  
○ balance 「残高」
- (7) 「彼は我々との約束を破ったばかりでなく、我々の悪口も言った。」  
○ not only A but also B 「AばかりでなくBも」  
○ besides …ing 「…する他に」  
besides を beside (～のそばに) と混同しないよう注意。  
○ speak ill of ~ 「～の悪口を言う」
- (8) 「なぜ結婚式に来なかったのですか。」  
○ keep [prevent; stop] A from …ing 「Aが…するのを妨げる」
- (9) 「彼らは会うといつもささいなことでけんかする。」  
○ whenever = every time 「…するときは必ず」  
○ never ~ without …ing 「～すれば必ず…する」 ※二重否定。  
○ trifle 「ささいなこと」

## 【5】

A.

### 解答

- (1) f                      (2) b                      (3) f  
(4) d                      (5) f [b]                      (6) d

### 解説

- (1) 「彼は結局メアリーを説得してそうさせたのですか。」  
○ persuade A to … 「Aを説得して…させる」 = persuade A into …ing

- (2) 「お願いだから、あなたはメアリーにそうさせることができないでしょうか。」  
 ○ make A … 「Aに…させる」  
 ○ for heaven's sake = for mercy's sake = for pity's sake (お願いだから)
- (3) 「私はメアリーにそうしてもらいたいと思う。」  
 ○ would like A to … 「Aに…してもらいたい」  
 want A to … の丁寧表現。  
 cf. like A …ing の形もあるが、主に否定文で用いられる。
- (4) 「ジョンはメアリーがそうすべきだと要求した。」  
 ○ insist on [upon] A (s) …ing 「Aが…すべきだと要求する」  
 cf. insist on [upon] …ing ((自分が) …することを要求する)  
 cf. insist that S (should) … (Sが…することを要求する)
- (5) 「私たちはメアリーにそうするように命令しなくてはなるまい。」  
 ○ order A to … 「Aに…するように命令する」  
 ○ order (that) S (should) … 「Sが…することを命令する」
- (6) 「メアリーがそうしてもかまいませんか。」  
 ○ mind A (s) …ing 「Aが…するのを嫌がる」  
 cf. Would you mind opening the window? (窓を開けていただけませんか。)

B.

**解答**

- (1) She is ashamed of having behaved [acted] like a child.  
 (2) His address was so funny [comical ; humorous] that we could not help laughing.  
 [= …we couldn't help but laugh.]  
 (3) She said nothing [kept silent] for fear of being laughed at.  
 (4) It is no use thinking now that I [we ; you] should have studied harder.  
 [= There is no use thinking now that I [we ; you] should have studied harder.]

**解説**

- (1) ○ be ashamed of …ing 「…したことを恥じる」  
 cf. be ashamed to … 「恥ずかしくて…できない」
- (2) ○ so ~ that … 「非常に～なので…」  
 ○ cannot help …ing = cannot (help) but … 「…せずにはいられない」
- (3) ○ for fear of …ing [= for fear (that) S should [might] …] 「…を恐れて」  
 他に, lest S (should) …, so that S will not …などを用いても表すことができる。
- (4) ○ it is no use …ing [to …], there is no use (in) …ing 「…しても無駄である」  
 ○ should have 過去分詞 「…すべきだったのに (しなかった)」 実現しなかった過去を表す。

- (1) Why didn't you ...? 「…してくれればよかったのに」
- ① *Why didn't you tell me you were a vegetarian?*
  - ② *Why didn't you give me a call before you came?*
  - ③ *Why didn't you tell that to me yesterday?*
- (2) Would you mind if ...? 「…してもよろしいですか」
- ① *Would you mind if I asked how old you are?*
  - ② *Would you mind if I sat next to you?*
  - ③ *Would you mind if I used your pen for a moment?*
- (3) With [Without] ～, S would [could] (not) have 過去分詞.  
「～があったら [なかったら] …した (しなかった) [できた (できなかった)] のに」
- ① *Without you, we couldn't have done it.*
  - ② *Without my advice, he would have failed.*
  - ③ *With a little more money, I could have bought that car I wanted.*
- (4) If S had (not) 過去分詞 ～, S' would (not) have 過去分詞.  
「もし～だったら [でなかったら] …した [しなかった] のに」
- ① *If you hadn't come along to help, we'd never have finished on time.*
  - ② *If you had told me you needed money, I would have lent you some.*
  - ③ *If I had known that, I would never have let her go there.*
- (5) I thought (you said) you ... 「…すると思ったのに」
- ① *I thought you were going to call last night.*
  - ② *I thought you said you would be here by three.*
  - ③ *I thought you said you were going to marry me.*
- (6) Why don't we ...? 「…してみたらどう？」
- ① *Why don't we ask the waiter for his recommendation?*
  - ② *Why don't we take a taxi?*
  - ③ *Why don't we ask the policeman over there how to get to the station?*

E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



Z-KAI

会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--

不許複製